

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100161		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター千葉浜野		
所在地	千葉県千葉市中央区村田町799-1		
自己評価作成日	平成24年2月3日	評価結果市町村受理日	平成24年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成24年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ニチイケアセンター千葉浜野はJR「浜野」駅より徒歩5分の立地の良い場所にあり、庭には花壇や畑、梅や桜も鑑賞でき、四季を感じられる静かで落ち着いた環境です。散歩や買い物の際、地域の方との関わりを持ち、今では盆踊り会場での専用テントの設営や、祭り神輿をホーム前で披露して下さる等、地域の一員として浸透しています。ホームの理念である「歩みを助ける杖のようなさりげない支援者となる」の通り、入居者様が負担に思わない、さりげない支援を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームを運営する法人は、我が国で有数の介護に関わる法人であり、その理念や経営活動は際立っており、業界における評価は高い。当ホームは法人理念に加えて独自の理念「歩みを助ける杖の様なさりげない支援者となる」を掲げており、情熱に燃える就任10ヶ月のホーム長の下、全職員がさりげなく、自立支援を行っている。男性職員の多いホームであるが、女性職員との絶妙なコンビネーションで、サービスを提供している。「利用者満足は職員満足から」と言うホーム長の考えが運営に反映しており、ホームは明るく元気で、利用者も職員ものびのびしている雰囲気がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援を目的とした、入居者様が負担に感じない、さりげない支援を実践している。	法人理念の他に「歩みを助ける杖の様なさりげない支援者となる」をホームの理念として掲げ、さりげなく自立を支援している。現任職員との共有は無論のこと、新任職員は面接を重視し、共感の持てる人を優先採用し、共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の盆踊り大会では、お席を用意していただき、お祭りでは入居者様の前でおみこしを見せていただきます。地域の一斉清掃にも積極的に参加しており、町会の回覧もいただいております。	地域の一員として自治会に加入、当番をこなす地域清掃など年次行事に必ず参加するようにしている。盆踊り大会や秋のお祭りでは好意的に対応してもらっており、利用者・家族も感謝している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会へのご招待をいただいたり、小学校の花いっぱい運動のプランターをいただいたり、地域の方々とのふれあいを通じて認知症に対する理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	諸事情で開催できない時もありますが、2ヶ月に1回の割合で開催し、就業関係から行事、入居状況の報告をし、様々な角度からのご意見をいただき、サービス向上に生かしている。	会議は2ヶ月に1度開催している。出席者は利用者代表、家族会代表、地域代表で民生委員、市あんしんケアセンター、知見を有する人、ホーム関係者等である。多くの意見があり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉県グループホーム連絡協議会、千葉市の集団指導に参加するなど、連携に努めている。	千葉県グループホーム連絡協議会、千葉市の集団指導に参加するなど、連携に努めている。新任職員の採用では市緊急雇用制度を活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉県の身体拘束廃止研修に順次参加し、学びを他職員に会議等で伝えている。常に施錠はせず、スタッフが付き添って自由に行き来している。	法人理念により身体拘束は一切していない。落下が心配な利用者はベット使用をせずに布団を床敷きにしたり、又ドアの鍵かけをしないで、チャイムで管理するなど安全を確保しつつ、拘束をしないケアの実践をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待研修へ順次参加、ホーム会議で情報共有し職員間で注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方が、3名おり、必要性を理解している。毎月、後見人の方へ情報をお伝えしている。後見人の方からは、お話を伺い、安心しましたとのお言葉をいただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせ、説明、質疑を充分に行い、ご不明、ご不安な点がないよう、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会で意見をいただき、また、来訪時は管理者や職員と充分にお話できるよう心がけている。	年2回家族会を開催している。会ではホームの出来ごとを克明に記録している運営推進会議の議事録を活用している。前回の家族会には14家族が参加する等毎回大勢の参加があり、様々な意見交換をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム会議の場や休憩を一緒に行う中での意見交換で運営に反映させている。	月1回以上のホーム会議や担当者会議の場があり、運営に関する意見交換や提案を聞いている。ホーム長は、職員がピリピリしていたらいいサービスが出来ないことを理解し、コミュニケーションの深まる職場づくりを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給者はキャリアアップ制度による昇給があり契約社員は、正社員への登用制度が設けられている。就業環境の改善に力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修、外部の研修など能力に応じた研修への参加を促進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政やグループホーム連絡会が開催する研修などに参加。意見交換をサービス向上に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のアセスメントに力を入れ、傾聴することで、ご本人の課題を見つけ出している。何よりご本人の安心に重点を置いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のこれまでのご努力を尊重しながらお話を伺い、どのような生活を望まれるのかを理解し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のお話とご家族のお話を伺い入居前のアセスメント時に必要なサービスを見極め提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は、ご自分で行っていただき、安全に過ごせるよう見守る支援で、一緒に生活する自然な関係を作れるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望を充分理解し、離れていても常にご家族とは共にあることを感じていただけような支援を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	3.11の災害時は岩手のお知り合いを心配される利用者にお知り合いにお電話をかけていただき安心してもらうなど、お一人お一人の思いを大事にしています。	知人が来訪の際は居室で寛いでもらう、家族や友人への年賀状を出す・電話をかける、家族の協力で行きつけの美容院に連れて行ってもらう等、馴染の関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お部屋を行き来するなど、お友達関係ができていの方もいらっしゃいます。お話相手ができるよう、また、孤立しないよう職員が仲介に入る支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	知りうる限り、残念ながら亡くなられた方のお通夜に、スタッフともども伺わせていただいたり、困った事があったらご相談くださるようお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画や目標の更新に当たっては、アセスメントの見直し、カンファレンスを行って、ご本人が穏やかに暮らせることを目指している。	本人・家族から話を聴く、生活歴を把握する、日々の個人記録を細かく取る、などにより本人の思いを推察している。また、一緒に過ごしていると、職員の言葉に反応を示してくれることもあり、それをキーワードに本人の思いの把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話を重ね、ご家族との話し合いの中から情報を得るよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やアセスメントにより個々のありのままの姿を受容できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの中でご本人の課題を導いて職員全体であるべき姿、そのために必要な事を検討し、介護計画を作成している。	家族からは来訪時や電話で要望を伺う、本人の介護記録を把握するなど これらを含め、日々の本人の様子を職員間で話し合い、ニーズを導き出し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録や申し送りノートを活用し、情報共有しながらニーズを導きだしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じてすみやかな判断と変化にあった対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社の初詣や公園の散策が入居者様の思い出作りになっている。花や景色を絵に描かれる入居者様もおられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診では、心配な事が相談でき、本人やご家族の安心につながっている。	月2回のかかりつけ医往診をはじめ歯科医、看護師、薬剤師、マッサージ師などの訪問があり、希望する医療が受けられるよう支援している。身体状況の心配ごとの相談が忌憚なく出来るかかりつけ医は、本人・家族の大きな安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	精神面での相談にも乗っていただけ、また職員も入居者様についての疑問点をうかがったり、知識をいただいたり連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族との連絡を密にし、お手伝いできる部分をサポートする。病院には介護サマリーを提出し、許可を得て、医師の説明に同席させていただいたり、入院中の情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約の際に重度化した場合のお看取りの指針を説明し、同意のご署名をいただいている。終末期にホームで対応できる事、できない事はきちんとご説明し、病院、提携医院等との連携を図りながら出来るだけ本人が希望される方法がとれるように支援している。	入居時に、重度化した場合の事業所の指針を説明している。終末期の方へのホームの対応は、本人・家族の希望に沿って医師・看護師等関係者と連携を取りながら最後まで過ごしてもらえること、入院加療が必要になった場合は医療機関に移っていただくことを説明し、了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議の中で議論を重ね、対応を確認しあい、実際に管理者不在の中で、容態急変者の救急搬送が非常にスムーズに行われた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で、避難体制と避難場所の確認をしている。	消防署による指導及び自主訓練を利用者も参加して実施した。火災想定訓練では緊急災害時の役割分担・避難場所・避難所要時間等の再確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほとんどの方は氏でお呼びしていますが、慣れ親しんだ呼び方で呼んでいる方もいらっしゃると思います。一人ひとりの人格は尊重するように心がけています。	目上の方であるということを踏まえた一人ひとりその方に合った話しかけと言葉使いをしている。呼びかけは本人の希望する呼び方で声掛けしている。入浴や排泄時などプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物は、お好みの物を聞いたり、食べ物の好き嫌いは、ある程度お伺いしております。表現が難しい方には、段階にわけて様子を伺いながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の場において、おおまかな流れはありますが、あくまでもその方のペースで穏やかに暮らすことができるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問理美容で整容し、行きつけの美容院のある方は、ご家族とお出かけになられています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じて、厨房に入って職員と一緒に調理を行っていただいたり、食器拭いていただいたりしている。また、週1度のお好みメニューや誕生会の祝い膳、正月や節句等の行事食など楽しむことができるよう支援している。	野菜の下ごしらえや米とぎ・食器拭きなど出来る方は職員と一緒にやっている。利用者の希望による週1度のお好みメニュー、誕生日の祝い膳や節句などの行事食、ホテルでの外食会など、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部より栄養のバランスのとれた献立と食材を導入し、ホーム内で調理し、その方に合った食事形態で摂取いただき健康を保てる食事量、水分量であるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じて食後の歯磨き、うがいをしていただき見守っている。夕食後は、入れ歯をお預かりし、専用薬剤で洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録より排泄のサイクルをつかみ、その方にあったサイクルでトイレ誘導を行っている。状態によっては、紙パンツを使用しているが、洗浄、清拭で清潔を保持し、感染症予防になっている。	介護記録で一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っている。おむつの方もなるべくトイレで排泄を支援している。出来るだけ「トイレで排泄する」ことに着目した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂り、無理のない運動の機会を提供し便秘予防をしている。排便を促す乳製品や、オリゴ糖などを利用し、また、プルーンなど一人ひとりの習慣に合った方法で支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中から入浴できる体制が整っている。、様々な入浴剤の香りと個別の対応で、お一人お一人入浴を楽しんでいただけるよう支援しています。拒否の方にも様々な工夫で3日に1度は入浴いただいております。	入浴は週2～3回を基本にしている。午前中から入浴可能で、本人の好み入浴剤を用いたり、菖蒲湯や柚子湯など季節ごとの旬の楽しみにも配慮した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の気温や湿度に気を配り、よく眠れるように足浴などを実施している。 夜間は2時間間隔で入居者様の安否を確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方により、薬剤師による薬の管理、居宅療養管理指導による情報を共有し、服薬の支援においては、準備段階より5段階の確認を行い、服薬の間違いをなくしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでの、ボールころがしや、トランプゲームなどその方にあったレクリエーションで笑顔を導き、職員との会話を楽しんだりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は、スタッフと近くの公園に散歩に行ったりコンビニに買い物に行ったりできる。介護タクシーで年2回遠出したり、お花見に出かけたりしている。	天気のいい日は近くの公園まで散歩したり、買い物に行ったりしている。遠出には千葉市の福祉バスを申し込み、出かけている。また介護タクシーを利用して花見や苺狩りに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の規定により、個人での金銭の管理はできないが、お小遣いを事務所でお預かりし、自由に買い物ができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状のやり取りや、電話も自由にお使いいただいている。その際の必要な支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月職員がかかわるがわる、季節のディスプレイを作り、飾っています。共有空間の気温や湿度には充分配慮し明るく、清潔な空間を作るよう心がけている	居間には利用者の作品や季節の花が飾られ、廊下にはソファが置かれ、陽ざしを楽しみながらゆっくり寛げる場になっている。小上がりの畳コーナーは、皆で洗濯物たたみをしたりボランティアの方の舞台に活用するなど、有効に使われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にある座敷は、誰でも座れる場所になっていて、廊下の長いすには、日中日当たりが良く、そこに座ってお話をしたり、居眠りをしたりととても自由な空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込んでいただいたり、家族の写真をかざったりできるよう支援している。広めのクローゼットがあり、利便性に富んでいる。	筆筒や小物類など馴染みのものが配置され、生活の継続が図られている。家族やご自身の写真を壁いっぱい飾っている方や仏壇を持ち込む方など、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームとして造られた建物のため、バリアフリーとなっている。手摺等も完備		